

A-10 女子学生の月経調査から見た女子教育の問題点

山口大学 森田 倭文

日本人女子の月経初潮が平均 14 年 6 ヶ月であることは、周知の通りであるが、これは生活条件に左右される所が大きい。最近の身体発育の極めて良好な中学女生徒の初潮は、戦前及び戦争直後に比較してどの様な傾向であるか、又思春期女子の家庭教育や、養護が適切になされているか否か、等の見地から、私は、山口県下の中高大学生約八千人について調査を試みた。その結果、都市部の生活条件がよくなり、環境のしげきが強烈になるに従い、初潮の早い者が多くなりつつあること。然もその性の発達に応じた適切な指導は、あまりなされていないこと、母親の最も大事なつとめと思われる月経の指導さえ極めえ不十分なことがわかった。家庭科教育の中に、純潔教育指導、性教育指導の問題点を見出して、それにどの様に対処してゆくかが、この研究の本旨である。